

Point

J R 東海 労 大 阪 修 繕 車 両 所 分 会 分 会 情 報
No. 161 2012. 08. 10
発行責任者 坂東 貞男
編集責任者 教 宣 部

危険なオスプレイの配備を許さないぞ！ 沖縄・岩国の闘いに連帯する大阪集会

8月5日、14時45分から西梅田公園において、大阪平和人権センターの呼びかけのもと「オスプレイの普天間基地配備と全国運用反対の緊急集会」が開催されました。私たち大阪修繕車両所分会は、JR東海労新幹線関西地本、各分会の仲間と共に参加してきました。

この集会は、沖縄県民集会と同時開催形式で行われる予定でしたが、台風11号の影響で沖縄県民集会が残念ながら延期となり同時開催とはなりませんでした。しかし大阪では、曇り空の大変蒸し暑い中、多くの参加者が集会とデモ行進でオスプレイ配備反対の大きな声を怒りを持って訴え沖縄・岩国の闘いに連帯する闘いをつくりだしてきました。



7月22日、23日両日に渡って、岩国基地に搬入されたオスプレイ12機は、8月中には沖縄米軍基地普天間に配備され、10月から沖縄・日本上空の7ルートで低空飛行訓練が行われる予定です。いつ、どこで、オスプレイが墜落しても不思議ではない状況が作り出されようとしています。

オスプレイは、ヘリコプターのような回転翼を使って垂直に離発着することができ、また回転翼の角度を変えることによって通常の飛行機のように水平飛行することもできるという、米軍の最新鋭の輸送機です。しかし、その機体の複雑な構造から、開発段階から墜落事故を繰り返し、実戦配備されてからも、4月にアフリカ・モロッコ、6月にはアメリカ・フロリダで墜落事故を起こし、世界一危険な航空機だといわれています。

沖縄では、これ以上の危険、普天間基地の機能強化は許さないと、オスプレイ配備について反対の声が上がっています。

沖縄・岩国の闘いに連帯し、墜落事故を繰り返す危険極まりないオスプレイの配備に反対するために、大阪の地からも大きく声をあげていきましょう。